「この一冊をどうぞ」

こんにちは、あなたのために二千字以内で一冊の本をお届けする選書サービス、「もじもじブックス」へお申し込みいただきありがとうございます。このサービスでは、人前に出るのはちょっと恥ずかしがり屋の店主が、あなたのために選んだ一冊を二千字以内のメッセージとともにお届けします。

さて、今回のご依頼人、たんぽぽさんからいただいたリクエストは、「日常の嫌なことを忘れさせてくれる本」ですね。プロフィールを拝見すると、三十代女性、お仕事は一般企業の事務職、趣味は食べ歩き、「最近仕事が忙しすぎて、リフレッシュできていません」と書き添えてありますね。…なるほど、かしこまりました。あまり文章が重たくなくて、くすっと笑いながら気分転換に読めるような本が良さそうですね。それでは、今日はとっておきの一冊である、さくらももこの『またたび』をご紹介したいと思います。

この本は、さくらももこが三十代の頃に編集長となって作った、伝説の雑誌『富士山』から旅エッセイだけを再編成した本です。ロンドン、ハバロフスク、グアム、韓国、ローマ、スリランカ、ベニス、広州、ホンコン、チベット、中国雲南省、日光、仙台…。 著者自身が行きたい!!と思った場所を、ひたすら気ままにぶらりと旅する企画。

同行するメンバーは、新潮社の木村さん、その上司の石井さん、カメラマンの広瀬くん、『富士山』スタッフの鈴木さんなど、行き先ごとに臨機応変に変わります。恋人でも友人でもなく、単なる仕事の間柄でありながら、わざわざ誘って旅を一緒にしたいと思える関係というのは、本当に貴重な存在。ところが、なにもかもが素晴らしいベニスの街を眺めながら、著者が放つ本音が最高にシュールで…。

> 〝死ぬほどロマンティックな風景の中で、私達は無言になっていた。皆、心の中で「…なんで一緒にいるのがこいつらなんだろう…」と思っているのは明白だった。しかし、それが取材旅行というものなのだ。〟

身も蓋もない言いようですよね。けれども、ときにハッとするような発見や真理に出会えるのもまた、非日常な旅行ならではの醍醐味ともいえます。

さらにロンドン旅行では、探し求めた念願の「エナメル人形」を見つけることができず、著者が猛烈に悔しがるシーンが出てきます。ここで特筆すべきは、「もう手に入らない…」と悟ってからの、さくらももこの次の言葉。

> 〝無いものは仕方ない。こうなったら他のかわいい物をいっぱい見つけようじゃないか。と、私は俄然ファイトが湧いてきた。失恋とか仕事や結婚で失敗した時なども、これと同じようなファイトの沸かせ方が大切だ。何かに失敗した時は、さっさと次のことを考えるように私はしている。〟

なんとも清々しいほどの、気持ちの切り替えではありませんか。はるばる異国の地へ足を運んだのに、肝心のお目当てのものが見つからないからといって、クヨクヨしていてはいけないのです。そういう時こそ、ほかにもっと夢中になるものを見つけて、発奮せねば。あれもこれも見たいと仲間と盛り上がり、思う存分美味しいものを食べ、現地の方々と交流し、快適なホテルでゆったり過ごす。旅は、いつだって自由なのです。

〝やっぱり、おいしい物を食べた時が一番「旅っていいなァ」と思っていると思います。理想の旅は、気の合う仲間と、スケジュールも決まってない、呑気な旅がいいです。適当に散歩したりカフェで休んだり、街の様子を見るのが好きなんです。あと、ホテルは良いホテルじゃないと、やだなァと思います。わがままですよね。わかってるんです……〟

ふわふわとした極楽体験をしておきながら、ところどころに混じる、現実感ある語りっぷり。さくらももこならではのユニークな洞察力と、ユーモア溢れる表現は、病みつきになる面白さです。日常で嫌なことに出くわしちゃったとき、たまには本の旅で逃避行するのもいいですよ。ページをめくれば、作者がどこにだって連れて行ってくれます。

「もじもじブックス」の選書サービス、いかがでしたでしょうか？

たんぽぽさんにご紹介をしているうちに、なんだか私まで日常を抜け出して、どこかへ出かけていきたくなりました。この本が、たんぽぽさんの興味をくすぐる一冊になれたら幸いです。それでは今回はこの辺で。またいつでも、あなたと本との出会いをつなぐ、ささやかなお手伝いができるのを心より楽しみにしています。

出典　さくらももこ、『またたび』、新潮社、２００３。